

# 丹後織物を世界ファッション業界に 活用するための開発と販売活動

## 民谷織物

民谷 共路さん



民谷 共路さん

平成25年度 採択事業

### 七色に光る貝殻の薄片を絹地に織り込む「螺鈿織」

貝殻の内側にある真珠層は、光の加減で様々な色に変化します。この貝殻に宿る「海のきらめき」を糸にして織り込んだ、世界でも類を見ない螺鈿（らでん）織物。今から40年近く前、京丹後市の民谷織物の初代・民谷勝一郎さんが着物用の帯に貝の真珠層を織り込む技法を研究し、約2年の歳月をかけて完成させました。



絹地に七色に光る貝殻の薄片を織り込む「螺鈿織」

これは、帯の伝統的技法である「引箔」（和紙に金、銀を押し込んだものを糸状に細く切り、緯糸として織り込んでいく技法）をもとに発展させた新しい技法で、薄く削った板状の貝殻を和紙などに貼り付け、細かく糸状に裁断して絹とともに織り込みます。すると着物の帯などに見事な絵柄が浮かび上がるという仕組みです。

本来、硬質で割れてしまう特性をもつ貝殻を緯糸（よこいと）に加工すること、それを織り込む際に経糸（たていと）を切ってしまうことを解消するための工夫など、完成までにはさまざまな壁を乗り越えることが必要でしたが、民谷さんの絶えざる熱意と努力はもとより、それを支えた関係者の技術協力や多くの支援に恵まれたことがその成功につながりました。

### 螺鈿織で培った技術で海外進出に挑戦

「貝殻、竹、和紙、漆等を糸として用い、和装帯で培った技術と日本の美意識を基にオリジナリティあふれる生地製作に努めております。バッグ地、インテリア、新しい感性による和装帯等、さまざまな場面でお使いいただけたら」と語る二代目の民谷共路さん。

地元の丹後地方は国内最大の絹織物産地で、和装用白生地織物（着物の生地）の3分の2を生産しています。しかし、和装需要の減少にともない、昭和48年のピーク時に比べ、生産量は現在約20分の1に減っています。また、和装業界全体の落ち込みによる担い手の減少と経

## 伝統製品の活用

営者の高齢化などが相まって、後継者難の問題も深刻です。

こうした状況の中、民谷さん自身も、かねてから自社の帯生地を和装以外に生かす道を模索していましたが、地元商工会から「JAPANブランド育成支援事業」への参画を勧められたことがきっかけとなり、海外進出への挑戦を決意します。

一回目のパリ行きは平成17年。全てが初の経験で「生地一つとっても反物で売るのが、バック等の商品に仕上がった方がいいのか、右も左もわからない状態だった」と民谷さん。大きな取引までには至りませんでした。目の肥えた海外のバイヤーから高い評価を得ることで十分な手応えを感じます。また、次年度からは海外取引に詳しいコーディネイターから様々なサポートや指導を受けることで、徐々に実質的な成果を上げていきます。



海外の展示会での出展風景

### 丹後の織りの技を世界のマーケットへ

こうした努力が実り、平成23年には世界的な新作ファッション発表会「パリ・コレクション」に螺鈿織が採用されます。さらに、平成25年2月にはパリで開かれる世界最大級のテキスタイル見本市「ブルミエールヴィジョン」の中に設けられた、シャネルをはじめ有名服飾ブランド向けに開く特別コーナー「メゾン・デクセプション（ずばぬけた匠）」に招待されました。

ここでは螺鈿織の他に、レザーと織物を融合させた新素材「革織」を発表。革といっても洗える天然レザーで、細かく裁断した皮革を使うことでワンピースやコートにも対応できる柔軟な質感が特徴です。会場での反響も大きく、その技術の革新性に驚かされたということです。

螺鈿織の技術を応用し、従来は使うことが難しかった和素材等を織り込んだ生地は、海外顧客の心も掴んでいます。「原材料を厳選するなどして価値を高めているラ

グジュアリーブランドでは、より高い付加価値を付けることにより更なる差別化を図ろうとしています。だから、これは丹後で培われた技や独創的な商品を世界にアピールするチャンスなんです」と意気込む民谷さん。「伝統を継承し、次世代に向けより発展させ伝えていくこと。それが私たちに課せられた使命であると考えています。

### 丹後織物のPRと新たな需要開拓を目指して

海外での評価は、国内展開の追い風にもなっています。その年の10月には、大阪・梅田の阪急百貨店で「丹後テキスタイル」と「丹後の食」をテーマにしたイベントが開催され、そこでも大きな反響を呼びます。また、東京・代官山で毎年開催する丹後産地の織物総合展「タンゴファブリックマルシェ」も予想を上回る来場があり、にぎわいを見せています。

「丹後の織元として守るべき日本の伝統も大切」とも話す民谷さん。今後も国内・海外の両輪で双方が付加価値を与え合える事業展開を進め、将来的には丹後を「世界が一目置く織物産地」にすることを目指しています。

「丹後は、本当に優れた技術や設備が地域単位で残されている特別な場所です。あとは行政や商工会の力もお借りしながらその潜在力を高め、将来的には産地の新しい市場開拓に繋がればと思います」。



海外メディアのインタビューに応える民谷さん

## 事業概要

### 民谷織物

<http://www.facebook.com/169657449788437>

代表：民谷 勝一郎

業種：西陣帯代行・西陣帯 OEM・帯製造業

創業：1975年1月

住所：〒627-0212 京丹後市丹後町三宅312

TEL：0772-75-0978 FAX：0772-75-1955